

じどうしつだより No. 81 (2012. 10発行)

読んでみませんか 児童室がえらんだえほん

本の情報	内容
<p>『あかちゃんかたつむりのおうち』</p> <p>いとうせつこぶん 島津和子え 福音館書店 2012.5</p> <p>1110421163</p>	<p>つちのなかのたまごがわれて、ちいさいおうちをせおったあかちゃんかたつむりがうまれました。おなかがぺっこべこのあかちゃんは、はっぱをいっぱいたべました。でも、うんちがでるとすぐにおなかはぺっこべこ。どんどんたべていると、おなかがふくれておうちにはいれなくなっちゃうよとてんとうむしに言われました。とてもしんばいになりますが、おなかがすいたらどうにもがまんができません。</p>
<p>『アルフィーのいえで』</p> <p>ケネス・M.カドウ文 ローレン・カスティーヨ絵 佐伯愛子訳 ほるぷ出版 2012.5</p> <p>1110432031</p>	<p>アルフィーのおきにいりのあかいくつ。ちいさくなったそのくつを、ママはよそへあげちゃうといいます。おこったアルフィーは、おきにいりのくつをはいて、「ぼく、いえでするからね！」とせんげん。そんなアルフィーのために、ママはすいとうやかいちゅうでんとうやたべものをよういしてくれます。アルフィーは、バッグにもつをつめこんで、くまのパディをつれていえをでますが…。</p>
<p>『ふたごのもうふ』</p> <p>ヘウオン・ユンさく せなあいこやく トランスビュー 2012.3</p> <p>1110423364</p>	<p>ふたごの姉妹は、なんでもわけっこ。あかちゃんのとから、おそろいのようにふくをきて、へやもいっしょ。もうふも、ずっといっしょに使ってきました。そんなふたりも、もう5歳。ふたりで使うには、今のもうふは小さすぎます。とりあいっこをしていたら、ママがひとりひとりにもうふをつくってくれました。ふたりはよろこんでそれぞれねどこにつきますが、なぜだかちっともねむれないようす。</p>
<p>『もりのおるすばん』</p> <p>丸山陽子さく</p> <p>童心社 2012.7</p> <p>1110403610</p>	<p>大きなもりのなかに、小さいえがたっていました。そのいえのまえをくまがどっしどっしとあるいていると、いえの中から女の子が出てきて、「しずかに、しずかに」といいます。しかやきつねやきつつきも、そのいえの近くでおとをたてると、いえの中から女の子がとびだしてきて、「しずかに、しずかに」といいます。いったいどうして？</p>
<p>『かあさんふくろう』</p> <p>イーディス・サッチャー・ハード作 クレメント・ハード絵 おびかゆうこ訳 偕成社 2012.7</p> <p>1110467860</p>	<p>ふくろうの夫婦がたまごをかえしました。うまれてきたひなにえさを与え、天敵から守り、ひとり立ちさせるまでの子育ての様子が、ものがたり形式でいねいに描かれています。ふくろうのすみかの様子、狩りの方法、敵を追い払う様子などから、ふくろうの生態を知ることができます。紺と茶の2色で彩られた版画の挿し絵も素敵です。</p>
<p>『さがしています』</p> <p>アーサー・ビナード作 岡倉禎志写真</p> <p>童心社 2012.7</p> <p>1110476368</p>	<p>1945年8月6日、広島に原爆が落とされました。焼かれた時計は、朝8時15分でとまったまま。「おはよう」のあとの「こんにちは」をさがしています。毎日がんばって仕事をしていた男の子の軍手は、今もあの手をさがしています。弁当箱、ワンピース、鉄瓶など、14のものたちが語りべとなり、原爆の被害にあった持ち主たちの暮らしや言葉を、それぞれの息づかいと豊かな表情が伝わる写真とともに伝えます。</p>